

司馬遼太郎が「明治の父」と呼んだ小栗上野介

～横須賀製鉄所(造船所)建設の意義～

鳴海風

私は、機械工学を専攻し、34年間デンソーで生産技術者として働いた・・・その間に歴史小説家としてデビューし、経営学も自主研究した・・・少し変わった経歴をもつ作家です(毎回同じ自己紹介です(^_^))。

今回は、有名ではあるけれど、実は、その実像(真の姿)がよく理解されていない小栗上野介について、私らしい(上記のキャリアを下地にした)手法で、しかし面白いネタを使って、お話させていただきます。

小栗上野介に興味をもって、史跡を訪ねていただければ幸いです。

講演目次

1. はじめに

小栗通を自認

よく言われますけど・・・



2. 大前提の史実認識

小栗上野介のマイナスイメージ

旗本小栗家は家康生前から徳川の家臣

幕末に生まれていなければ・・・?(逆説的理解)

3. 小栗上野介登場

いきなりアメリカ派遣使節(総勢77名)に抜擢

2つの準備に見る、小栗らしさ(2. があって理解される)

アメリカで受けたカルチャーショックの数々

4. 小栗上野介の活躍

横須賀製鉄所建設を中心に

勘定奉行と言え小栗上野介・小栗上野介と言え横須賀製鉄所

フランスに接近した理由(消去法もあるが、栗本瀬兵衛との再会は大)

造船所はドックだけでなく、機械工場群で成立

5. 小栗上野介の最期

権田村土着後の計画

東山道総督府の不可思議な行為

6. おわりに

鳴海風の執念3つ

①難を逃れた小栗夫人らのその後を小説に

②「小栗かるた」への読み札応募

③『怒濤逆巻くも』復刊

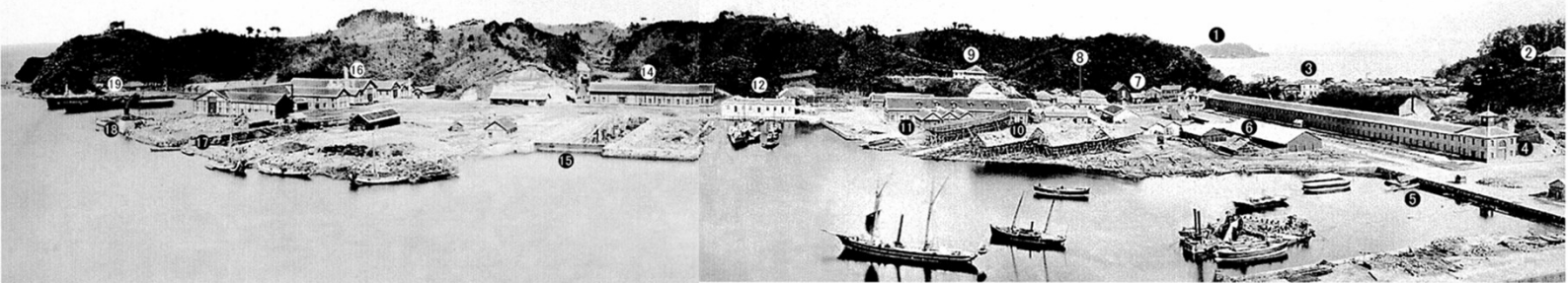


【追記】レジュメの最後に、オリジナルの「小栗上野介任免記録」と「小栗上野介が残したことば」を添付しました。

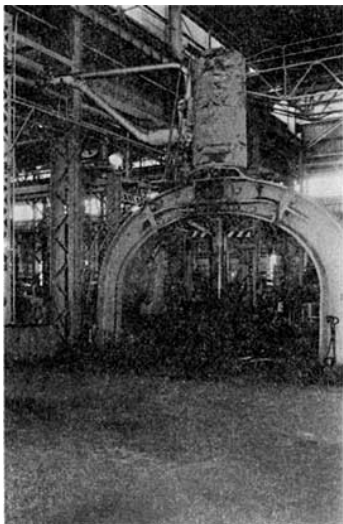
横須賀製鉄所関連 としておきの資料



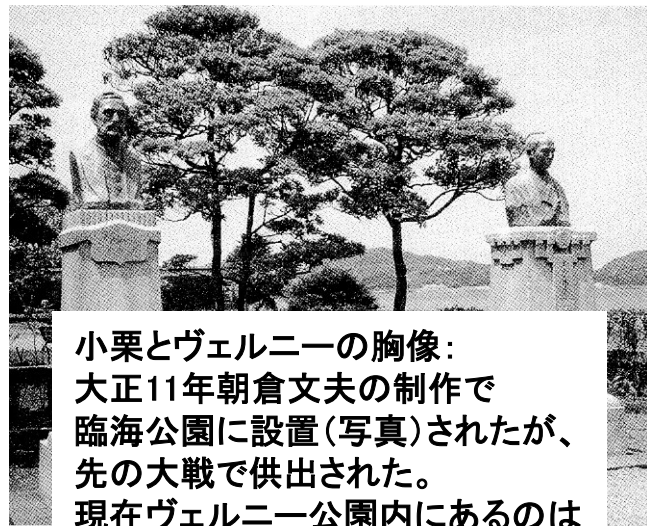
明治15年頃の『横須賀港一覽絵図』



明治5年頃の横須賀造船所(明治4年4月9日改称)



スチームハンマー：
日本現存最古の鍛造機。
国指定文化財。日本機械学会
機械遺産 第58号(2013年認定)。
0.5、3.トンのうち3トンは、
平成8年まで130年間、横須賀
米軍基地で稼働していた。長く
オランダ製だと思われていたが、
オランダの商社が英国製のを
輸入したことが判明した。
その論文はネットで読める。
現在もヴェルニー記念館に
展示されていて見学できる。



小栗とヴェルニーの胸像：
大正11年朝倉文夫の制作で
臨海公園に設置(写真)されたが、
先の大戦で供出された。
現在ヴェルニー公園内にあるのは
内藤春治の制作、昭和27年設置。

西暦	和暦	小栗上野介の任免記録など
1855	安政2	10月22日跡目相続(幼名剛太郎、諱は忠順)し、小栗家当主が代々名乗る又一(第12代)にあらためる。29歳。
1856	安政3	
1857	安政4	1月11日御使番。 12月16日布衣(従六位相当)。
1858	安政5	
1859	安政6	9月12日本丸御目付。33歳。 9月13日「亜墨利加国へ本条約為取替可被差遣候間用意可致旨」芙蓉の間で井伊大老や老中列席の中で申し渡される。 11月21日諸大夫(従五位下)。25日豊後守に任官。 12月1日将軍家茂よりアメリカ行きを命ぜらる。職務は目付(監察で全権つまり新見豊前守、村垣淡路守、木村摂津守と同格)。
1860	安政7万延1(3月18日)	11月8日外国奉行。 12月1日200石加増されて、2700石となる。
1861	万延2文久1(2月19日)	7月26日 外国奉行を罷免 。
1862	文久2	3月御小姓組番頭。 3月9日寄合より元外国奉行、御書院番頭。 5月18日「御軍制御用取調」を兼帯。 6月5日勘定奉行勝手方。上野介に任官。 閏8月25日 勘定奉行勝手方を罷免 。江戸南町奉行。 閏8月27日当分の内、勘定奉行勝手方兼帯。 12月1日 江戸南町奉行を罷免 。初代歩兵奉行。 12月5日勘定奉行勝手方を兼任。
1863	文久3	4月23日 歩兵奉行、勘定奉行勝手方を罷免 (引責辞任とも)。 7月28日陸軍奉行並。 8月陸軍奉行並罷免。勤仕並寄合。
1864	文久4元治1(2月20日)	8月13日勤仕並寄合より、元陸軍奉行並、勘定奉行勝手方。 11月末「製鉄所御用」を拝命。 12月18日 勘定奉行勝手方を罷免 。 12月18日軍艦奉行。
1865	元治2慶応1(4月7日)	1月「横須賀製鉄所取立」を拝命。 2月21日 軍艦奉行を罷免 。寄合。 5月4日寄合より勘定奉行勝手方。
1866	慶応2	8月4日海軍奉行並を兼任。 8月11日元軍艦奉行、勘定奉行勝手方、さらに軍艦奉行並(海軍奉行)を兼任。
1867	慶応3	12月28日陸軍奉行並を兼任。
1868	慶応4	1月12日江戸城で大会議。最後まで主戦論を主張。 1月15日 勘定奉行勝手方、海軍奉行並、陸軍奉行並を罷免 。 1月28日「権田村への土着願書」提出。29日許可がおきる。 閏4月6日水沼河原で斬首。42歳。

小栗上野介が残したことば

○青年時代 20代後半か？

「三檣船(さんしょうせん)を禁ずれとも元来航海は沿海に限るに非ず、支那までも進んで貿易せざる可べからざるものなれば三檣船も用ひざるべからず」
(戸川残花『旧幕府』史伝小栗上野介 国立国会図書館デジタルコレクションから)

○元治元年(1864)12月中旬 38歳

「当時の経済は真に所謂(いわゆる)遣り繰り身上(しんしょう)にて、例之(たとへ)此事を起こさざるも、其財を移して他に供するが如きにあらず、故に無かる可からざるのドック修船所を取立ると成らば、却(かえつ)て他の冗費を節する口実を得るの益あり、又愈々(またいよいよ)出来(しゅつたい)の上は、旗号に熨斗(のし)を染出すも、猶ほ土蔵附売家の榮譽を残す可し」
(栗本鋤雲『匏庵遺稿』横須賀造船所経営の事 国書データベースから)

○慶応3年(1867)4月 41歳

『兵庫商社設立の建議書』から抜粋「・・・外国人と取引致候には何れにても外国交易の商社(西名コンペニー)之法に基き不申候半而(もうさずそうらいて)は、逆(ととも)盛大之貿易と御国之利益に相成り申す間敷(まじく)と奉存候・・・右之外(ほか)気燈(ガスランプ)書信館(ポストエフシー郵便局)等公儀におみて御取設に相成候はば莫大之御利益相成可申候」
(塚越芳太郎『読史余録』小栗上野介 国立国会図書館デジタルコレクションから)

○幕末 41、42歳か？

小栗は敢て不可的(インポシブル)の詞を吐たる事なく、「病の癒(い)ゆ可ならざるを知りて薬せざるは孝子の所為(しよい)に非ず国亡び身斃るる迄は公事に鞅掌(おうしょう)するこそ真の武士なれ」と云ひて屈せず撓(たわ)まず。
(福地源一郎『幕末政治家』小栗上野介 国立国会図書館デジタルコレクションから)

○幕末 42歳か？

幕末の賢吏(けんり)小栗上野介は、嘗(かつ)て幕閣を評して曰く、「一言以て(たったひと言で)国を亡ぼすべきもの、ありやどうか成ろう(なんとかなるだろう)と云ふ一言なり、幕府が滅亡したるは、此一言なり」
(福地源一郎『幕府衰亡論』第18章 国立国会図書館デジタルコレクションから)